

「SDGs 持続可能な社会」

西九州大学 健康栄養学部 健康栄養学科 准教授 福山 隆志

最近、SDGs という言葉が注目されている。日本語では「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals」エスディージーズの略号だ。SDGs は 2001 年策定のミレニアム開発目標（MDGs）の後継課題として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された 2016～2030 年の国際目標である。

国連加盟の 193 ケ国が、2016 年から 2030 年の 15 年間で貧困や飢餓の撲滅、質の高い教育の確保など「17 のゴール（目標）」と具体的な「169 のターゲット」で構成するものだ。

1. 貧困をなくそう。2. 飢餓をゼロ。3. すべての人に健康と福祉を。4. 質の高い教育をみんなに。5. ジェンダー平等を実現しよう。6. 安全な水とトイレを世界中に。7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに。8. 働きがいも、経済成長も。9. 産業と技術革新の基盤をつくろう。10. 人や国の不平等をなくそう。11. 住み続けられるまちづくりを。12. つくる責任、つかう責任。13. 気候変動に具体的な対策を。14. 海の豊かさを守ろう。15. 陸の豊かさも守ろう。16. 平和と公正をすべての人に。17. パートナリーシップで目標を達成しよう。

この 17 目標からなる SDGs がすばらしいところは、国連の全加盟国が 2030 年までの目標を全会一致で定めたことだ。「誰一人として取り残さない」とする、SDGs の考え方は、地球上どこでも世界言語として通じる。宗教や思想信条、政治経済では様々な価値観により一致点は見出しにくい、SDGs にその懸念はない。

それは、SDGs17 項目の全ての目標が「幸せ」であることだ。SDGs を知れば、全てが自分と関わりのある目標だとの理解が深まり、一人ひとりの意欲も高まる。このことから若い世代に関心をもってもらうことが重要で、教育現場での取り組みが期待されている。西九州大学グループでは、神埼キャンパス健康栄養学科と三光幼稚園が連携し、この SDGs に取り組んでいる。佐賀県の事業として始まったもので、栄養教諭を目指す学生が専門家とともに三光幼稚園の給食づくりに取組んだり、佐賀県有田町の小中学校へ出向いたりして、食をめぐる課題解決に向けた学習や行動を続けている。最終年の 2030 年に留まらず未来へ、みんなで手を携えて、ともに目標に向けて進んで行きたい。